十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	76	実施計画番号	6		
事務事業名	公園遊具の安全点検			事業開始年度	平成14年度
担当課名	都市整備建築課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等			関連事務事業		
背景や経緯等	2002年、国土交通省が示した「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」により、事業開始した。				
事務事業の目的	公園内遊具の状況を常に把握し、危険箇所の早期発見及び早期対処に努め、来園者の安全を確保することを目的とする。				
実施状況	4月から12月の9ケ月、毎月1回、職員による安全点検及び、年2回の専門業者による安全点検を行い異常を早期に発見し、適切な維持管理を行っている。				

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	9	9	9
非常勤職員	人件費(千円)	133	133	133

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	420	450	486
うち一般財源	420	450	486
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①		直営作業員(目視)による都市公園遊具の安全点検			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
			回/年	9	9	9
	活動指標名②		専門業者による都市公園及び農村公園遊具の安全点検			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
			回/年	2	2	2
成果指標	成果指標名①		直営作業員(目視)による都市公園遊具の安全点検			
	計算式等	単位		24年度	25年度	26年度
		回/年	目標値	9	9	9
			実績値	9	9	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②		専門業者による都市公園及び農村公園遊具の安全点検			
	計算式等	単位		24年度	25年度	26年度
		回/年	目標値	2.0	2.0	2.0
			実績値	2	2.0	
			達成度(%)	100%	100%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	76
計画No	6

【担当課による検証】

		ポイント	検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	①	**市民ニーズ等から見る妥当性** 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市民から子供たちに安心・安全な遊具の管理が求められている。都市公園は設置自治体の管理が義務付けられている。
	②	**実施主体である妥当性** 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③	**活動指標から見る有効性** 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 近年、毎月(4～12月)点検と専門家による年1回の点検で遊具の事故は発生していない。ただし、作業員の雇用がない冬季間は実施していない。
	④	**成果指標から見る有効性** 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤	**事務事業の見直しの余地** 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	⑥	**事業費の削減の余地** 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 遊具の修繕計画を策定するための専門業者による安全点検業務委託は、極限までコストを削減している。また、直営作業員の点検は維持管理業務と調整しながら実施している。
	⑦	**他の事務事業との統合・連携** 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧	**民間委託等** 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨	**受益の偏り** 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 広く市民に開放されている都市公園のため受益に偏りはない。
	⑩	**受益者負担の見直しの余地** 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
				現在の適性		20 / 20	改善の余地 0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
公園遊具による事故の防止のため、点検業務を実施する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果
冬季間の遊具点検を実施にむけて検討する。